

授業概要

止まないコロナ感染症、地球温暖化の加速や自然災害の増加、ウクライナとロシアの戦争等、私たち人類は試練の時を迎えています。一方で人類の英知を結集した種々のテクノロジーの恩恵により、新たな未来型のライフスタイルを手に入れることが出来るようになってきました。反面、国内事情においては、日本の食料自給率は先進諸国において最も低く、深刻さが一層増しています。本演習では、このように変化の激しい時代に求められるビジネスについて検討します。現在政府は、「デジタル田園都市国家構想」を打ち出しており、「地方創生」を目指しています。また、AIやビッグデータ、IoT、ロボットなどの発展による「第4次産業革命」が進行中であり、「Society 5.0」を提唱し、「超スマート社会」の実現を目指しています。更に経済産業省では、「第5次産業革命」を見据え、バイオテクノロジーが拓く「バイオエコノミー社会」の実現を牽引しています。これらの最新の動向について理解を深めながら、自身の未来というキャンパスに様々な要素を描けるよう、グループディスカッションや個別研究プレゼンテーションを実施しながら、本学の教育理念である「自立と共生」、すなわち自らの頭で考え、自らの足で立ち、豊かなコミュニケーション力を修得できるよう指導します。

授業計画

| | | | |
|------|-------------------|------|----------------|
| 第1回 | 地球は人類だけのものではない | 第16回 | バイオ産業 |
| 第2回 | 第1次から第5次産業革命まで | 第17回 | 日本の食料事情とスマート農業 |
| 第3回 | SDGs | 第18回 | 医療・介護・福祉ビジネス |
| 第4回 | 平均寿命の延びと健康寿命 | 第19回 | 健康・予防ビジネス |
| 第5回 | ホモ・エコノミクス | 第20回 | スポーツビジネス |
| 第6回 | 幸福と経済の関係 | 第21回 | 環境・エネルギービジネス |
| 第7回 | 地球温暖化・自然災害 | 第22回 | 北海道・東北地方の産業 |
| 第8回 | 感染症と人類の戦い | 第23回 | 関東の産業 |
| 第9回 | 人々のニーズとライフスタイルの変化 | 第24回 | 北陸・中部地方の産業 |
| 第10回 | 政治におけるリーダーと人々の生活 | 第25回 | 近畿地方の産業 |
| 第11回 | デジタル田園都市国家構想 | 第26回 | 中国・四国地方の産業 |
| 第12回 | Society 5.0 | 第27回 | 九州・沖縄地方の産業 |
| 第13回 | 地方創生 | 第28回 | 地球全体の課題の抽出 |
| 第14回 | 超スマート社会 | 第29回 | 日本社会の課題の抽出 |
| 第15回 | バイオエコノミー社会 | 第30回 | 新たなビジネスの創造 |
| | | 第31回 | 試験 |

到達目標

- ・最新の社会・経済用語を説明できる。
- ・未来思考で物事を考えることができ、課題に対する具体的な解決方法を検討することができる。
- ・チーム力を修得する。・個別テーマを掘り下げることができる。・プレ社会人としてのスキルを修得する。

履修上の注意

就職試験に役立つ知識を修得できるよう指導しますので、自分の将来のキャリアパスを描き、実現に近づけましょう。業界研究も行いますので、卒業研究論文のテーマも絞り込めるようにしましょう。社会実装をリアルに学ぶ機会として産学連携事業へ参加もしますので、是非プレ社会人としてのスキルを修得しましょう。

予習復習

専門用語や最新の用語が多いので、事前学習(1時間程度)及び各単元後の復習(1時間程度)必要

評価方法

試験(最終レポート含む)60%、小レポート及びプレゼンテーション40%

テキスト

- ・教科書名：今がわかる時代がわかる『日本地図』最新版
- ・教科書名：日経キーワード2022-2023
- ・出版社名：成美堂出版
- ・出版社名：日経HR
- ・出版年：2022年秋 1600円
- ・出版年：2021年12月 1150円

授業概要

この演習では、組織の競争力の源泉（その組織にしかない強み）を調べて議論します。具体的には、前半は企業のイノベーション活動について、後半はビジネスモデルについて検討していきます。インスタントラーメンや QR コードなど身近な製品がどのように開発されたのか、ユニクロモデルなどのビジネスモデルの特徴はなにか、など学生が興味をもった製品やビジネスモデルを調べて、発表をし、それについて全員でディスカッションをします。機会があれば、生産現場を訪問します。事例を通じて知識を習得し、企業活動について理解を深めてください。

授業計画

| | | | |
|--------|----------------|--------|-------------|
| 第 1 回 | ガイダンス | 第 16 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 組織のイノベーションについて | 第 17 回 | ビジネスモデルについて |
| 第 3 回 | 事例発表① | 第 18 回 | 事例発表① |
| 第 4 回 | 事例発表② | 第 19 回 | 事例発表② |
| 第 5 回 | 事例発表③ | 第 20 回 | 事例発表③ |
| 第 6 回 | 事例発表④ | 第 21 回 | 事例発表④ |
| 第 7 回 | 事例発表⑤ | 第 22 回 | 事例発表⑤ |
| 第 8 回 | 事例発表⑥ | 第 23 回 | 事例発表⑥ |
| 第 9 回 | 事例発表⑦ | 第 24 回 | 事例発表⑦ |
| 第 10 回 | 事例発表⑧ | 第 25 回 | 事例発表⑧ |
| 第 11 回 | 事例発表⑨ | 第 26 回 | 事例発表⑨ |
| 第 12 回 | 事例発表⑩ | 第 27 回 | 事例発表⑩ |
| 第 13 回 | 文献講読① | 第 28 回 | 文献講読① |
| 第 14 回 | 文献講読② | 第 29 回 | 文献講読② |
| 第 15 回 | 文献講読③ | 第 30 回 | 文献講読③ |
| | | 第 31 回 | |

到達目標

- ① 企業のイノベーション活動について、どういうことか理解できる
- ② ビジネスモデルについて理解できる

履修上の注意

自分の興味ある製品・サービス、ビジネスモデルについて調査し、発表することを求めます。またディスカッションに積極的に参加してください。

予習・復習

次回の事例について調べて、演習に参加してください。また、演習で学んだ理論について復習してください。

評価方法

演習での発表内容、ディスカッションへの参加状況など、総合的に評価します。

テキスト

指定はしません。

授業概要

本演習では、近代経済学の手法を用いて経済を分析し、有効な政策を提言することができるようにすることを主目的とする。近代経済学の手法とは、統計的な方法を用いた計量経済学の手法のことである。例えば、経済活動水準が低いときには減税を実施すべきなのか、公共投資を実施すべきなのか。それを的確に判定するためには、現在の経済状況をモデル化する必要がある。

そのため、経済学の理論を習得するとともに、現実のデータを用いて経済分析をするための統計学の方法も駆使できるように指導する。

授業計画

| | | | |
|--------|---------------|--------|---------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション | 第 17 回 | 統計モデル解析の方法 1 |
| 第 2 回 | EXCELの復習 1 | 第 18 回 | 統計モデル解析の方法 2 |
| 第 3 回 | EXCELの復習 2 | 第 19 回 | 統計モデル解析の方法 3 |
| 第 4 回 | EXCELの復習 3 | 第 20 回 | 統計モデル解析の方法 4 |
| 第 5 回 | EXCELの復習 4 | 第 21 回 | 統計モデル解析の方法 5 |
| 第 6 回 | EXCELの復習 5 | 第 22 回 | 統計パラメーターの考察 1 |
| 第 7 回 | アドインソフトの使い方 1 | 第 23 回 | 統計パラメーターの考察 2 |
| 第 8 回 | アドインソフトの使い方 2 | 第 24 回 | 統計パラメーターの考察 3 |
| 第 9 回 | アドインソフトの使い方 3 | 第 25 回 | 統計パラメーターの考察 4 |
| 第 10 回 | アドインソフトの使い方 4 | 第 26 回 | 統計パラメーターの考察 5 |
| 第 11 回 | アドインソフトの使い方 5 | 第 27 回 | モデル分析の応用 1 |
| 第 12 回 | 必要なデータの収集方法 1 | 第 28 回 | モデル分析の応用 2 |
| 第 13 回 | 必要なデータの収集方法 2 | 第 29 回 | モデル分析の応用 3 |
| 第 14 回 | 必要なデータの収集方法 3 | 第 30 回 | モデル分析の応用 4 |
| 第 15 回 | 必要なデータの収集方法 4 | 第 31 回 | まとめ |
| 第 16 回 | 中間テスト | 第 32 回 | 期末テスト |

到達目標

経営や経済のデータを分析するために、的確な統計モデルを構築し、計算結果を解釈することができるようになることが、本講義の到達目標である。幸い、EXCELには多様な統計処理ソフトが組み込まれているので、それらを有効に活用して適切な統計処理ができるようになってほしい。

履修上の注意

パソコンの実習が中心となるので、パソコンの操作（表計算とワープロ）は身につけておいてほしい。ただし、それらは必要条件ではないので、演習で指導をする。しかしながら、そうした受講生は人一倍努力してもらいたい。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

課題の提出状況などを見て判断する。

テキスト

今のところは特定のテキストを指定することは考えていないが、演習の進行状況に応じてこちらから指定することがある。

授業概要

(1) 私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいますので、次の点を講義・訓練します。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。
 (2) 具体的には、皆さんが就職を突破するのに必要な技術(自分が何者かを理解している、自分の良さをアピールできる、自分には確固たる目標がある、人と話がスムーズにできる、自分の主張に根拠を付けることができる、社会人としての必須用語を身に付けるための講義・訓練します。
 (3) 就活は、早まってきています。専門演習では、就活に必要なことをより実践的に具体的に訓練します。

授業計画

| | | | |
|--------|-------------------|--------|--------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス | 第 16 回 | マナー①電話での応答の仕方は？ |
| 第 2 回 | アイスブレイキング | 第 17 回 | マナー②メールの書き方は？ |
| 第 3 回 | 就活前提① 私はこんな人！ | 第 18 回 | マナー③就活の服装は？ |
| 第 4 回 | 就活前提② 私の強みはこれ！ | 第 19 回 | 社会人①話は全体と個別・位置付け！ |
| 第 5 回 | 就活前提③ 私の目標はこれ！ | 第 20 回 | 社会人②話に盛り込む要素は3つ？ |
| 第 6 回 | 就活前提④ 私はこんな企業を選ぶ！ | 第 21 回 | 社会人③話に詰まったら？接続詞等！ |
| 第 7 回 | 就活前提⑤ 就活ノートの作り方は？ | 第 22 回 | 社会人③失敗したときの対策は？ |
| 第 8 回 | 就活スケジュールを作ってみる！ | 第 23 回 | 社会人④人の時間を奪うな！ |
| 第 9 回 | インターンシップに行ってみる！ | 第 24 回 | 社会人⑤困った質問への対処は、逆を！ |
| 第 10 回 | 私はこれで企業を選ぶ！ | 第 25 回 | 社会人⑥プレゼンは何でもいいじゃん！ |
| 第 11 回 | 履歴書の書き方はこれ！ | 第 26 回 | 社会人⑦雑談の仕方にもルールあり！ |
| 第 12 回 | 面接質問への対処①頑張ったこと！ | 第 27 回 | 就職試験対策①必須知識前半 |
| 第 13 回 | 面接質問への対処②私の強み・弱み！ | 第 28 回 | 就職試験対策②必須知識後半 |
| 第 14 回 | 面接質問への対処③ガクチカがない？ | 第 29 回 | 論文の書き方①論文とは？ |
| 第 15 回 | 面接質問への対処④御社に貢献する！ | 第 30 回 | 論文の書き方②論文の構成は？ |
| | | 第 31 回 | 期末レポートの提出 |

到達目標

- 1 自己分析が終了しており、その自己なるものを文章化でき、かつ、口頭で説明することができる。
- 2 就活スケジュール全体が理解されており、必要かつ十分な就活ノートを作成することができる。
- 3 就職面接での応答内容を理解できること、かつ、充分に対応することができる。
- 4 社会人としてのマナーや、コミュニケーション等について、充分な対応力を発揮することができる。
- 5 就職試験に出題される問題(毎日検定、SPI等を含む)の多くを解くことができる。

履修上の注意

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられます。
- 4 3年次春期に「インターンシップⅡ」を、3年次秋期に「キャリアデザインⅡ」を履修して下さい。

予習・復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

評価方法

期末レポートへの配点が40%、宿題提出・発表の有無(注)、その内容の良しあし等への配点等が60%です。

(注)「宿題の提出・発表」は、基礎演習の単位を取得するための最重要事項です。

テキスト

なし。すべて、教員作成の独自テキストを配付します。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的把握に努めて、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。特に、演習後半では、卒業論文の作成に備え、論文作成に必要な基礎（レジュメの書き方や発表の仕方）の取得も合わせて進める。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
 秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
 また、各期3回以上のレポートの提出を求める。

| | | | |
|--------|---------------------|--------|----------------|
| 第 1 回 | 国際会計の意義と研究領域 | 第 16 回 | 各自のテーマの報告と討論 1 |
| 第 2 回 | 国際会計制度の沿革 1 (IASC) | 第 17 回 | 各自のテーマの報告と討論 2 |
| 第 3 回 | 国際会計制度の沿革 2 (IASB) | 第 18 回 | 各自のテーマの報告と討論 3 |
| 第 4 回 | 主要国の会計国際化 1 | 第 19 回 | 各自のテーマの報告と討論 4 |
| 第 5 回 | 主要国の会計国際化 2 | 第 20 回 | 各自のテーマの報告と討論 5 |
| 第 6 回 | 主要国の会計国際化 3 | 第 21 回 | 各自のテーマの報告と討論 6 |
| 第 7 回 | IFRS の理論構造と特徴 1 | 第 22 回 | 各自のテーマの報告と討論 7 |
| 第 8 回 | IFRS の理論構造と特徴 2 | 第 23 回 | 各自のテーマの報告と討論 8 |
| 第 9 回 | IFRS の理論構造と特徴 3 | 第 24 回 | 各自のテーマの報告と討論 9 |
| 第 10 回 | IFRS の要点解説 (B/S 項目) | 第 25 回 | 論文作成の基礎 1 |
| 第 11 回 | IFRS の要点解説 (B/S 項目) | 第 26 回 | 論文作成の基礎 2 |
| 第 12 回 | IFRS の要点解説 (B/S 項目) | 第 27 回 | 論文作成の基礎 3 |
| 第 13 回 | IFRS の要点解説 (P/L 項目) | 第 28 回 | 論文作成の基礎 4 |
| 第 14 回 | IFRS の要点解説 (P/L 項目) | 第 29 回 | 論文作成の基礎 5 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ | 第 30 回 | 秋期のまとめ |
| | | 第 31 回 | 定期試験 |

到達目標

- ・発表レジュメの作成と完成度を向上できる。
- ・卒業論文作成の基本を習得できる。

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習・復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性（授業態度を含む）20%、レジュメ・発表のでき具合 40%、定期試験 40%

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

今の日本経済は低迷し、将来的にもかなり厳しい状況が予想されている。特に地方経済の停滞は著しい。これを地方の活性化から発信していかに日本の経済社会を豊かにしていくかについて考えたい。このような問題意識のもとで、本演習ではエリアスタディ（地域研究）に関連した卒業論文作成準備を指導する。また、夏休みに北海道北広島市でフィールドワークを行いたいと考えている。

授業計画

| | | | |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス 授業概要と評価方法 | 第 16 回 | ガイダンス 授業概要と評価方法 |
| 第 2 回 | 履修計画を立てる 時間割表の作成 | 第 17 回 | 履修計画を立てる 時間割表の作成 |
| 第 3 回 | PC で文字入力 タッチタイピング | 第 18 回 | 発表① 体験の中で気づいたこと |
| 第 4 回 | 文章作成 段落を作る | 第 19 回 | 発表② ノートに書いた観察記録 |
| 第 5 回 | ノートの取り方 参照と引用 | 第 20 回 | 研究の主題、対象、方法を考える |
| 第 6 回 | 紙の新聞を読む | 第 21 回 | 主題・先行研究の調べ方 図書館へ行く |
| 第 7 回 | Google で調べる 見当をつける | 第 22 回 | 主題・先行研究の調べ方 ネットを使う |
| 第 8 回 | 国立国会図書館データベースの活用 | 第 23 回 | 調査設計 仮説検証型・仮説生成型など |
| 第 9 回 | 新聞データベースの活用 | 第 24 回 | 先行研究と学問体系 |
| 第 10 回 | 書かれていない知りたい情報は何か | 第 25 回 | 方法 量的調査と質的調査 |
| 第 11 回 | フィールドワークのプランを立てる | 第 26 回 | 研究計画書の作成 論文作成に向けて |
| 第 12 回 | テーマのキーパーソンを探す | 第 27 回 | 事前準備 構成の組み立て |
| 第 13 回 | キーパーソンへ聞き取りの依頼をする | 第 28 回 | 資料（スライド）の作成 |
| 第 14 回 | フィールドワークの行程表を作成する | 第 29 回 | 発表の準備 リハーサル的重要性 |
| 第 15 回 | メモの取り方 あとで使えるように | 第 30 回 | 研究計画の口頭発表 |
| | | 第 31 回 | |

到達目標

- ・地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができる。
- ・地域活性化策を論理的に考えることができる。
- ・卒業論文作成の準備ができる。

履修上の注意

この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

予習・復習

タッチタイピングの練習を事前に行うこと。講義で学習した内容を講義後にまとめる（保存しておく）こと。

評価方法

研究計画の口頭発表 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。

授業概要

この演習では、観光産業について広く学び、観光ビジネスの特性や現場で行われていること、今後の動きを見通しながら観光全般についての理解を深めていきます。

現在社会における観光の重要性を理解したうえで、卒業論文のテーマを想定し、観光業・観光関連業務に従事することも視野に、興味を広げ、自分なりの学ぶ姿勢を身に着けます。

授業計画

| | | | |
|--------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | 春期オリエンテーション | 第 16 回 | 秋期オリエンテーション |
| 第 2 回 | 観光の意義、人や企業や地域への効果 | 第 17 回 | 観光政策と観光行政、その1 |
| 第 3 回 | 観光に関するワードと内容 | 第 18 回 | 観光政策と観光行政、その2 |
| 第 4 回 | 観光産業で働くこと | 第 19 回 | 課題研究、その1 |
| 第 5 回 | 観光資源の多様性 | 第 20 回 | 課題研究、その2 |
| 第 6 回 | 観光ビジネス(宿泊、鉄道、航空、MICE、DMO) | 第 21 回 | マストゥーリズムからサスティナブル・トゥーリズム |
| 第 7 回 | 旅行業(商品、地域との関わり) | 第 22 回 | インバウンドへの取組み1 |
| 第 8 回 | 旅行業(消費者保護、旅行業離れ) | 第 23 回 | インバウンドへの取組み2 |
| 第 9 回 | 宿泊産業(ホテル) | 第 24 回 | 個別テーマ・DMO |
| 第 10 回 | 宿泊産業(旅館・その他) | 第 25 回 | 個別テーマ・ヘルスツーリズム |
| 第 11 回 | 宿泊産業(旅館の復活) | 第 26 回 | 個別テーマ・エコツーリズム |
| 第 12 回 | 観光交通・環境・バリアフリー | 第 27 回 | 個別テーマ・オーバーツーリズム |
| 第 13 回 | テーマパーク・スキー場・展示施設 | 第 28 回 | 個別テーマ・Web 販売 |
| 第 14 回 | 観光情報、ツール、媒体、IT | 第 29 回 | 個別テーマ・SNS |
| 第 15 回 | 春期のまとめ | 第 30 回 | 秋期のまとめ |
| | | 第 31 回 | 卒論について |

到達目標

- ・観光に関する分野を幅広く学び、興味のある分野については現状の問題点について指摘できる。
- ・観光に関する興味のある分野の情報、資料、文献を収集し、与えられたテーマに対して自分の考えをレポートとして記述できる。
- ・観光にかかわる興味のある分野について、直接人から自ら情報収集を行い資料整理ができる。

履修上の注意

演習を通して、視野を広く持てるよう全体の理解を深めつつ、個別のテーマに興味を持って、掘り下げる方法について試行錯誤をしてください。

予習・復習

演習後に自分で内容の確認、整理、復習を行ってください。興味がある分野については自ら調べて、まとめて考察すること。秋期途中から、研究テーマの設定、レポート作成などを行う予定です。

評価方法

チェックテストやレポートの配点が70%、授業での発言、姿勢などで30%の配点。

テキスト

使用しませんが、必要に応じて演習中に案内します。

授業概要

テーマ：マーケティング（スポーツマーケティングも含む）

本演習は、マーケティングに関する卒業研究を行うための準備を進めることを目的として指導します。卒業研究では、自分の知りたいことを明らかにするために「研究」を行います。この「研究」をする上では、「今までどんな研究が行われてきたのか」を知る必要があります。また卒業論文は、「論文という文章はどんな形式で書かれているのか」を知らなければ書くことができません。したがって、この演習では実際に世の中に公開されているマーケティングに関する論文を参加者全員で読み、「今までどんな研究が行われてきたのか」「論文という文章はどんな形式で書かれているのか」を学ぶことができるよう指導します。後半は参加者各自の興味・関心のある研究テーマを発表し合い、意見交換を行い、卒業研究を始めるための最終準備を行います。

授業計画

| | | | |
|--------|------------------|--------|------------------|
| 第 1 回 | 春期オリエンテーション | 第 16 回 | 秋期オリエンテーション |
| 第 2 回 | 文献・資料の探し方 | 第 17 回 | 研究テーマの発表方法 |
| 第 3 回 | 論文発表とディスカッション 1 | 第 18 回 | 参加者による研究テーマ発表 1 |
| 第 4 回 | 論文発表とディスカッション 2 | 第 19 回 | 参加者による研究テーマ発表 2 |
| 第 5 回 | 論文発表とディスカッション 3 | 第 20 回 | 参加者による研究テーマ発表 3 |
| 第 6 回 | 論文発表とディスカッション 4 | 第 21 回 | 参加者による研究テーマ発表 4 |
| 第 7 回 | 論文発表とディスカッション 5 | 第 22 回 | 参加者による研究テーマ発表 5 |
| 第 8 回 | 論文発表とディスカッション 6 | 第 23 回 | 参加者による研究テーマ発表 6 |
| 第 9 回 | 論文発表とディスカッション 7 | 第 24 回 | 参加者による研究テーマ発表 7 |
| 第 10 回 | 論文発表とディスカッション 8 | 第 25 回 | 参加者による研究テーマ発表 8 |
| 第 11 回 | 論文発表とディスカッション 9 | 第 26 回 | 参加者による研究テーマ発表 9 |
| 第 12 回 | 論文発表とディスカッション 10 | 第 27 回 | 参加者による研究テーマ発表 10 |
| 第 13 回 | 論文発表とディスカッション 11 | 第 28 回 | 参加者による研究テーマ発表 11 |
| 第 14 回 | 論文発表とディスカッション 12 | 第 29 回 | 参加者による研究テーマ発表 12 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ | 第 30 回 | 秋期のまとめ |
| | | 第 31 回 | 最終レポートの提出 |

到達目標

本演習は、以下の3点を到達目標とします。

- (1) 自分の知りたいことについて、今までどんなマーケティングに関する研究が行われてきたのかを説明することができる。
- (2) 論文の形式と書き方について説明することができる。
- (3) 自分の興味・関心のあるテーマについて、わかりやすく他者に説明することができる。

履修上の注意

- ・この演習は松原も含め参加者全員で議論し、理解を深め合います。毎回必ず出席してください。やむを得ず欠席（または遅刻）する場合は、必ず松原まで連絡をしてください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・マーケティング論をすでに履修していることを前提として演習を行います。まだ履修していない人は、この演習を履修することと並行して、**マーケティング論を必ず履修してください。**
- ・そのほか、履修をする上で気になることがあれば、松原まで遠慮なく連絡をください。

予習・復習

- ・前半：次回演習で扱う論文を読み、感想や気になったことをまとめる。発表担当者は発表資料を作成する。
- ・後半：発表担当者は発表資料を作成する。

評価方法

- ・発表（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、最終レポート（30%）で評価します。

テキスト

なし

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているいくつかの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。近年、注目されている技術としては、AI(人工知能)とブロックチェーン技術がある。この2つを中心にその理解と活用方法を学び、事例を紹介しながら、社会における使用状況を知る。また、AI(人工知能)とブロックチェーン技術により、社会や個人の生活がどのような変化が生じ、未来の展望を考えたい。また、本学のデータサイエンスコースでの重要な領域であるAI演習を行い、学生の知識と技術を向上させることを目指す。

授業計画

| | | | |
|--------|------------------|--------|-----------------|
| 第 1 回 | AI(人工知能)の理解—1 | 第 16 回 | ブロックチェーン技術とは |
| 第 2 回 | AI(人工知能)の理解—2 | 第 17 回 | 暗号資産との関係 |
| 第 3 回 | AI(人工知能)の理解—3 | 第 18 回 | 暗号資産の種類 |
| 第 4 回 | AIをanaconda環境で使う | 第 19 回 | ブロックチェーン技術の可能性 |
| 第 5 回 | pythonの理解 | 第 20 回 | ブロックチェーン技術の課題 |
| 第 6 回 | python演習1 | 第 21 回 | ブロックチェーンの活用1 |
| 第 7 回 | python演習2 | 第 22 回 | ブロックチェーンの活用2 |
| 第 8 回 | python演習3 | 第 23 回 | 卒論に向けた研究テーマ検討 |
| 第 9 回 | python演習4 | 第 24 回 | AI(人工知能)の開発1 |
| 第 10 回 | python演習5 | 第 25 回 | AI(人工知能)の開発 |
| 第 11 回 | AI(人工知能)の演習1 | 第 26 回 | AI(人工知能)の開発 |
| 第 12 回 | AI(人工知能)の演習2 | 第 27 回 | AI(人工知能)の社会への影響 |
| 第 13 回 | AI(人工知能)の演習3 | 第 28 回 | 室論研究テーマを検討する |
| 第 14 回 | 発表 | 第 29 回 | 発表 |
| 第 15 回 | まとめ | 第 30 回 | まとめ |

到達目標

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているAI(人工知能)とブロックチェーンの技術の事例を含めて、学習し習得することを目標としている。

履修上の注意

前半は、座学と演習を中心にAIの知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノートPCまたはタブレットを使用することになります。また、卒業研究のテーマの検討や就職に関する指導を行います。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での参加や積極的な発言とレポート提出及び演習の成果発表などで評価する

テキスト

- 教科書名： 別途 連絡する
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年：

授業概要

この演習はデータサイエンスの実践的内容とAIへの応用を学ぶことを目標とします。データサイエンスにおいては、分析の実践的な手順や準備の仕方・代表的な分析手法を理解し、課題に合わせて適切な手順や手法を用いることが必要です。また、出力される数値や法則に基づく構造理解と価値創造ということを実に理解しなければ、役に立つ分析とはなりません。この演習では、グループ研究を通じて、これら実践的なことを学びます。また、データサイエンスの各種手法を機械学習機能としてAIに取り込むには、Pythonでプログラムを作成することができなくてはなりません。そのため、この演習ではPythonベースでデータサイエンスを学びます。4年次にはより進んだデータサイエンスや量子コンピューターを使ったデータサイエンスへと進みますが、そのときもこの専門演習での学習内容が基礎となります。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回 | 春期オリエンテーション | 第 16 回 | 秋期オリエンテーション・強化学習入門 |
| 第 2 回 | グループ研究と卒業研究について | 第 17 回 | 強化学習 1 (強化学習を体験する) |
| 第 3 回 | Anaconda のインストール | 第 18 回 | 強化学習 2 (状態・観測・報酬) |
| 第 4 回 | 各種モジュールのインストール | 第 19 回 | 強化学習 3 (情報のやり取り) |
| 第 5 回 | ニューラルネットワークの数学的基礎 | 第 20 回 | 強化学習 4 (強化学習の目的) |
| 第 6 回 | Back Propagation | 第 21 回 | 強化学習 5 (報酬和) |
| 第 7 回 | Keras と TensorFlow | 第 22 回 | 強化学習 6 (動的計画法) |
| 第 8 回 | ニューラルネットワーク 1 (分類) | 第 23 回 | 強化学習 7 (Q学習) |
| 第 9 回 | ニューラルネットワーク 2 (モデル 1) | 第 24 回 | 強化学習 8 (実装) |
| 第 10 回 | ニューラルネットワーク 3 (回帰) | 第 25 回 | 強化学習 9 (実装 (続)) |
| 第 11 回 | ニューラルネットワーク 4 (モデル 2) | 第 26 回 | 強化学習 10 (完成) |
| 第 12 回 | ニューラルネットワーク 5 (cnn1) | 第 27 回 | 量子情報理論 1 (複素数) |
| 第 13 回 | ニューラルネットワーク 6 (cnn2) | 第 28 回 | 量子情報理論 2 (複素線形代数) |
| 第 14 回 | グループ研究の成果発表 | 第 29 回 | 量子情報理論 3 (テンソル) |
| 第 15 回 | 卒業研究の進め方 | 第 30 回 | 量子情報理論 4 (量子ビット・ゲート) |
| | | 第 31 回 | 年間学習内容の確認 |

到達目標

- ・データサイエンスについての理解を深め、実践的な分析ができる。
- ・ニューラルネットワーク・強化学習を理解できる。

履修上の注意

この演習はPythonでのプログラミングができる人(例:「プログラミングⅠ・Ⅱ」を履修した人、履修中である人)を対象としています。また「データサイエンス」および全学共通科目の「数学(線形代数基礎)」「数学(解析基礎)」を履修したか履修予定である必要があります。演習はゼミ室でノートPCを用いて行います。そのため、各自のノートPCを持って来てもらいます。

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきます。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ研究を行いますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。

就職試験に関する指導を行います。例) エントリーシートの書き方、面接練習

予習・復習

予習: テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。

復習: 学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献(学習への積極的関与)40点、グループ研究への貢献60点で評価します。合計100点のうち51点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が3分の2に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

専門演習では、企業が開示する財務情報等を理解し、企業をみる目を養うことを目的とする。題材は、上場企業が公表する「有価証券報告書」を予定している。例年、春期終わりからは、グループワークによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行う指導をしている。内容は、社会的課題を解決する、将来が期待できる上場企業を探し、仮想資金を投資する家庭をレポートにするものである。

基本的には、ゼミ生がレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。履修者の人数にもよるが、また、就職活動の準備には、筆記試験（SPI など）やグループワークがゼミ活動としては欠かせないと考えているため、適宜、それらにかかわる内容を指導する。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------------------|--------|------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス・上場企業について | 第 17 回 | 夏季休業期間中の課題の報告 |
| 第 2 回 | 上場企業の選択と下調べ | 第 18 回 | 上記報告を踏まえた課題の討論 |
| 第 3 回 | 有価証券報告書の概要 | 第 19 回 | 各自の社会的課題に関連する討論 |
| 第 4 回 | 主要な経営指標 | 第 20 回 | チームの社会的課題に関連する討論 |
| 第 5 回 | 沿革・事業内容・企業集団 | 第 21 回 | スクリーニング基準の検討 |
| 第 6 回 | 業績の概要 | 第 22 回 | 第 1 スクリーニング基準の検討 |
| 第 7 回 | 収益性の分析（ROA・ROE） | 第 23 回 | 上記基準を適用した企業選定 |
| 第 8 回 | 収益性の分析（資本利益率の分解） | 第 24 回 | 第 2 スクリーニング基準の検討 |
| 第 9 回 | 安全性の分析 | 第 25 回 | 上記基準を適用した企業選定 |
| 第 10 回 | キャッシュ・フローの分析 | 第 26 回 | 仮想資金の投資先の決定 |
| 第 11 回 | 対処すべき課題 | 第 27 回 | 仮想資金の投資金額の配分 |
| 第 12 回 | 事業リスク | 第 28 回 | レポートの完成・提出 |
| 第 13 回 | 秋期に向けて（株式・株式会社） | 第 29 回 | プレゼンテーション準備や資料作成 |
| 第 14 回 | 秋期に向けて（投資の基礎） | 第 30 回 | プレゼンテーション |
| 第 15 回 | まとめと秋期に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス | 第 31 回 | プレゼンをまとめたレポート提出 |
| 第 16 回 | 有価証券報告書の概要をまとめたレポート提出 | | |

上記項目は目安であり、進捗や人数により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』の記載内容の概要を知ることができる。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを執筆することができる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加することができる。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの 2 年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）など就職活動にかかわる内容を積極的に指示する。また、他ゼミや他学年のゼミ生と合同で学外授業をすることがある。

予習復習

予習・課題に関する報告資料（レジュメ）の作成と、説明・回答するための内容の検討。
 復習・次回のための基礎知識の確認。

評価方法

演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ 50%、および提出された課題（期末レポート）50%を目安として評価する。

テキスト

・参考文献：桜井久勝『財務諸表分析』最新版（執筆時は、第 8 版、2020 年）、中央経済社（ISBN：9784502342417）、3,740 円。

授業概要

中国経済の歴史と現状についての基本知識を習得する演習である。報告テーマを数多く提供するので、その中から関心のあるテーマを選んで発表し、発表者に対して質疑応答を行う形式をとる。1980年代より高度成長を成し遂げ、経済大国になった中国だが、その経済発展は今後持続可能なのか、資源や環境問題、所得格差問題、少子高齢化問題などをどのように克服していくのか、これらを巡って掘り下げた議論を行ってきたい。

授業計画

| | | | |
|------|-------------------------------|------|----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション(演習内容、進め方、評価方法などの説明) | 第16回 | オリエンテーション(春期の振り返りと秋期の目標設定) |
| 第2回 | グローバル経済の中の中国経済① | 第17回 | 中国の人口・労働力・雇用問題Ⅰ |
| 第3回 | グローバル経済の中の中国経済② | 第18回 | 中国の人口・労働力・雇用問題Ⅱ |
| 第4回 | 中国の改革開放政策の変遷①実験主義、漸進主義的手法 | 第19回 | 中国の「四農」(農業・農村・農民・農民工)問題 |
| 第5回 | 中国の改革開放政策の変遷②鄧小平の「先富論」 | 第20回 | 中国の戸籍制度Ⅰ—戸籍制度の成立過程 |
| 第6回 | 「社会主義市場経済」とは何かⅠ—「計画」から「市場」へ | 第21回 | 中国の戸籍制度Ⅱ—戸籍制度改革と都市化 |
| 第7回 | 「社会主義市場経済」とは何かⅡ—株式制、証券取引所の導入 | 第22回 | 中国の戸籍制度Ⅲ—戸籍制度改革と「二重構造」の解消 |
| 第8回 | 「社会主義市場経済」とは何かⅢ—国有大企業の地位 | 第23回 | 環境問題Ⅰ—現状と対策 |
| 第9回 | 外国投資の役割Ⅰ—資本・技術・経営管理手法の導入 | 第24回 | 環境問題Ⅱ—経済大国としての責任 |
| 第10回 | 外国投資の役割Ⅱ—国際収支、雇用への貢献 | 第25回 | エネルギー不足問題と新エネルギー開発の動き |
| 第11回 | 地域開発と地域格差Ⅰ | 第26回 | 中国の「走出去」政策 |
| 第12回 | 地域開発と地域格差Ⅱ | 第27回 | 日中貿易関係 |
| 第13回 | 格差問題の現状と対策 | 第28回 | 日本の対中直接投資Ⅰ—中国事業の重要性 |
| 第14回 | 協調的な発展に向けて | 第29回 | 日本の対中直接投資Ⅱ—中国事業のリスク |
| 第15回 | 春期定期試験 | 第30回 | 総復習、一年間内容のまとめ |
| | | 第31回 | 秋期定期試験 |

到達目標

- 1、要領よくレジュメを作成することができる。
- 2、適切なコメントや問題提起ができる。
- 3、中国経済に関する基礎知識を習得し、日本との異同点を概ね理解することができる。

履修上の注意

- 1、報告内容に関連する補充資料の添付が望ましい。
- 2、報告内容に限らず、中国経済に関する幅広い議論を期待したい。
- 3、時間に余裕があるときに就職関連の指導も行う。

予習・復習

報告者でなくても予定の内容を通読し、予備知識をつけておくこと。

評価方法

授業態度(積極性、発表内容)60%、期末試験(40%)を総合して評価する。

テキスト

特に使わない。必要に応じて参考書を指示し、資料を配布する。

授業概要

この科目は、基礎演習を踏まえ、交通（鉄道・バス・航空・船舶）事業を中心に、交通と深く関わる観光、まちづくり（地方創生や地域活性）も対象に含め、能動的に学ぶ科目である。(1) どうして、政府・地方自治体は交通や観光、まちづくりに関与しているのか、(2) 現実に展開されているこれらに対する政策がどのような施策なのか、(3) どのような政策がより望ましいと考えるか、交通・観光・まちづくりのあり方について、ミクロ経済学をベースとした交通経済学を分析ツールに用いて学修する。

この科目では、基礎演習と同じく、(A) 講義と (B) 演習（討議）を 1 セットととらえ、講義で学んだことから、より望ましいあり方についてなど自分自身の考えを表明し、ディスカッション（討議）する。

授業計画

| | | | |
|--------|------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス | 第 16 回 | ガイダンス |
| 第 2 回 | 交通サービス・観光サービスの基本 | 第 17 回 | 交通政策に関わる法律 (A) |
| 第 3 回 | 交通の経済的規制 (A) (1) | 第 18 回 | 交通政策に関わる法律 (B) |
| 第 4 回 | 交通の経済的規制 (A) (2) | 第 19 回 | 整備新幹線 (A) |
| 第 5 回 | 交通の経済的規制 (B) | 第 20 回 | 整備新幹線 (B) |
| 第 6 回 | 交通・観光の社会的規制 (A) | 第 21 回 | 整備新幹線並行在来線 (A) |
| 第 7 回 | 交通・観光の社会的規制 (B) | 第 22 回 | 整備新幹線並行在来線 (B) |
| 第 8 回 | 政府・自治体からの補助 (A) | 第 23 回 | 航空政策 (A) |
| 第 9 回 | 政府・自治体からの補助 (B) | 第 24 回 | 航空政策 (B) |
| 第 10 回 | 政府・自治体の関与 (A) | 第 25 回 | 都市交通のデジタル化・利便性向上 (A) |
| 第 11 回 | 政府・自治体の関与 (B) | 第 26 回 | 都市交通のデジタル化・利便性向上 (B) |
| 第 12 回 | 交通需要の予測 (A) | 第 27 回 | ルーラル・人口減少地のまちづくり (A) |
| 第 13 回 | 交通社会資本整備 (A) | 第 28 回 | ルーラル・人口減少地のまちづくり (B) |
| 第 14 回 | 交通社会資本整備 (B) | 第 29 回 | 交通拠点の機能強化 |
| 第 15 回 | ふりかえり | 第 30 回 | ふりかえり |
| | | 第 31 回 | 期末レポートの提出 |

到達目標

- (1) 交通・観光・まちづくりに関する分野でテーマを設定し、さまざまな資料や情報を収集できる
- (2) 論文を作成するための基本的な作業を修得し、論文のテーマを設定できる
- (3) 学んだ知識を活かして、自分自身で調べ、それを基に自分の考えを明確に表明できる

履修上の注意

- ・履修生の興味・関心、進行度合いによって、授業計画を変更・調整することがある
- ・双方向（インタラクティブ）方式の演習であるので、病欠などのやむを得ない事由を除き毎回出席する
- ・やむを得ない事由で欠席する場合は、事前に連絡する（第 1 回のガイダンスで詳細説明）
- ・夏休みに、授業時間外の学外活動（三陸方面へのゼミ合宿）を予定している（社会情勢により変更あり）

予習・復習

講義回で学んだことを踏まえ、自分自身の興味・関心のあるところでさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習・準備する。

評価方法

(1) 発表の準備状況 20%、(2) ディスカッションへの参加状況 30%、(3) 論理的な意見表明 30%、(4) 期末レポート 20% の 4 点で評価する。ただし、事前連絡なき欠席が一定回以上に達した場合は成績評価されない。

テキスト

テキストを使用しないが、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

授業概要

本演習では、大企業や中小企業などの海外展開や問題解決手法のプロセスを通して、企業が抱える問題や課題を認識することにより、卒業論文の研究の方向性を決めると共に、卒業論文の作成に必要な基本的手法を学ぶことを目指します。具体的には、下記の通りです。

- ・春期は、受講生には2～3名のチームを組んでもらい、事例研究に対するグループディスカッションや企業の海外展開に関するレポート作成により、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努める共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。
- ・秋期は、卒業論文の構成を理解し、研究テーマの設定、リサーチプロポーザルと調査計画の作成など、卒業論文の執筆に向けての前段作業を行い、現時点における研究のまとめを作成することを目指します。

授業計画

| | | | |
|------|------------------------|------|---------------|
| 第1回 | 春期演習の概要 | 第16回 | 秋期演習の概要 |
| 第2回 | プレゼンテーションの概要 | 第17回 | 卒業論文の構成 |
| 第3回 | 大企業の国際経営とは | 第18回 | 卒業論文の構成 |
| 第4回 | 多国籍企業の海外への直接投資と歴史 | 第19回 | 研究テーマの設定 |
| 第5回 | 多国籍企業の組織構造と組織の進化 | 第20回 | 研究テーマの設定 |
| 第6回 | 海外子会社の経営戦略 | 第21回 | リサーチプロポーザル作成 |
| 第7回 | 国際的なマーケティング | 第22回 | リサーチプロポーザル作成 |
| 第8回 | 海外の生産拠点と研究開発 | 第23回 | 調査計画の作成 |
| 第9回 | 国際的な人的資源管理 | 第24回 | 調査計画の作成 |
| 第10回 | 国際的な戦略的提携と経営戦略 | 第25回 | 研究の進行状況の報告 |
| 第11回 | 中小企業の海外展開 ① | 第26回 | 研究の進行状況の報告 |
| 第12回 | 中小企業の海外展開 ② | 第27回 | 研究の進行状況の報告 |
| 第13回 | 海外展開している企業分析のプレゼンと討議 ① | 第28回 | 現時点における研究のまとめ |
| 第14回 | 海外展開している企業分析のプレゼンと討議 ② | 第29回 | 現時点における研究のまとめ |
| 第15回 | 春期のまとめ | 第30回 | 今後の研究作業に関して |
| | | 第31回 | 秋期のまとめ |

到達目標

- ・大企業の海外展開における成功例、失敗例の実例を学び、現状や課題を客観的に捉えることができる。
- ・中小企業の海外進出の実践に向けて、そのビジネスプランを構想、立案することができる。
- ・研究テーマを設定し、卒業論文の項目に沿って調査分析することにより、卒業論文の構成を作成できる。

履修上の注意

- ・ゼミ生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・ゼミではディスカッションインを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- ・2022年日本経済の動向など、就職活動に役立つ指導を行う。

予習・復習

- ・春期は各テーマに関連する新聞記事、雑誌記事などをピックアップして、演習内で発表すること。また、企業の海外展開におけるレポート作成を指示する。
- ・秋期は研究のテーマ、リサーチプロポーザル、調査計画、進捗状況は適宜発表してもらうので、各自自分で整理・復習してください。

評価方法

- ・成績は、出席状況、演習参加への姿勢・貢献度 40%、事例研究、企業の海外展開に関するレポート作成、卒業論文のテーマとリサーチプロポーザルの策定 60%により評価する。

テキスト

- ・テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示します。

授業概要

(1) 経営財務「経営財務」を基本テーマとするゼミとします。「経営財務」はファイナンス、財務会計、管理会計の応用分野で、具体的には財務諸表を読み込んで資金計画を立て、銀行借入や社債発行、株式発行などでの資金調達や会社の財務計画を行うことです。経営のヒト・モノ・カネにおけるカネの分野です。

(2) しかし各自の学生が興味、関心を持ったテーマも尊重し、そのテーマでの研究を深めて4年次で卒業論文を執筆に繋げる路も可能とします。「経営財務」以外では、マクロ経済学、ミクロ経済学、国際経済学、開発経済学、金融論、各種経済政策、各国の経済史、経済学史、医療経済学、病院経営論、世界の医療制度、社会保障論、人口論、労働法、財務分析、経営分析、医学史、歴史の分野での卒業論文指導はできません。ゼミ生が研究テーマを見定め、論文のスタイルに纏めるように指導します。

授業計画

| | | | |
|--------|---------------------|--------|--------------------|
| 第 1 回 | 春期ガイダンス：ゼミの進め方の説明 | 第 16 回 | 秋期ガイダンス：卒論執筆への準備 |
| 第 2 回 | 準備、企画、発想、情報収集 | 第 17 回 | 情報整理、論旨構成、文章ルール |
| 第 3 回 | 各自の関心を明確にし、資料を集める | 第 18 回 | 論文構成を構築（研究目的、研究方法） |
| 第 4 回 | テーマを絞り込んでいく | 第 19 回 | 研究の進捗状況の報告 1 |
| 第 5 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 1 | 第 20 回 | 研究の進捗状況の報告 2 |
| 第 6 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 2 | 第 21 回 | 研究の進捗状況の報告 3 |
| 第 7 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 3 | 第 22 回 | 研究の進捗状況の報告 4 |
| 第 8 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 4 | 第 23 回 | 研究の進捗状況の報告 5 |
| 第 9 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 5 | 第 24 回 | 研究の進捗状況の報告 6 |
| 第 10 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 6 | 第 25 回 | 研究の進捗状況の報告 7 |
| 第 11 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 7 | 第 26 回 | 研究の進捗状況の報告 8 |
| 第 12 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 8 | 第 27 回 | 研究の進捗状況の報告 9 |
| 第 13 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 9 | 第 28 回 | 研究の進捗状況の報告 10 |
| 第 14 回 | 資料・文献を収集し、発表報告する 10 | 第 29 回 | 4 年生の卒論報告会への参加（予定） |
| 第 15 回 | 春期のまとめ | 第 30 回 | 秋期のまとめ |
| | | 第 31 回 | 卒業研究執筆着手へのガイダンス |

到達目標

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集・整理し、内容を理解できる。
- ・研究目的、研究方法、研究結果、結論の論理構成を理解し、実行できる。
- ・論文作成における論理的思考力を習得できる。
- ・卒業論文執筆着手への準備ができる。

履修上の注意

- ・演習は参加型の授業スタイルなので、毎回出席し、積極的に発表、発言、質疑応答、議論をしてください。
- ・キャリア形成、就職試験に関する指導もおこないます（SPI テスト、時事問題、インターンシップなど）
- ・教員情報は大学 HP、インターネットでキーワード「福永肇」で検索して得てください。

予習・復習

- ・予習や復習では毎回、専門用語がたくさん出てきます。その日から自分のボキャブラリーとして使ってください。
- ・予習は、私が配布した資料、論文や、自分で検索した文献を読み込み、ゼミで分担発表や討論をします（予習していなければ、発表や討論が出来ません）。
- ・復習は、ゼミでの発表や討論を通じて広がった知見や見識を整理・復習し、次の発表に反映、展開させます。

評価方法

- ・春期は①資料や文献などの報告発表、討論での積極性の評価（70%）と②ゼミへの貢献度（30%）
- ・秋期は①各自のテーマ（⇒4年次の卒業論文テーマ）の設定、準備、研究進行状況、報告内容への評価（70%）とゼミへの貢献度（30%）

テキスト

- ・現時点ではテキストに以下を考えていますが、このゼミを履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めたいです。関連資料や文献コピーは配布します。
- ・『『専門家』以外の人のための 決算書&ファイナンスの教科書』、西山茂著、東洋経済出版社、2019 年刊

授業概要

「経営戦略とリーダーシップ」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、戦略について書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など、就職活動のみならず、社会に出ても役立つ基礎能力やリーダーシップを身につけるよう指導する。

授業計画

| | | | |
|--------|-----------------|--------|-------------------|
| 第 1 回 | 春期概要：経営戦略の理論を学ぶ | 第 16 回 | 秋期概要：リーダーシップを養成する |
| 第 2 回 | 良い戦略とは？ | 第 17 回 | 戦略的思考：論理的批判的思考 |
| 第 3 回 | 悪い戦略とは？ | 第 18 回 | 戦略的思考：システム思考 |
| 第 4 回 | グループワーク① | 第 19 回 | 戦略的思考：戦略的意思決定 |
| 第 5 回 | 競争戦略 | 第 20 回 | 戦略的思考：戦略とリーダーシップ |
| 第 6 回 | 5つの競争要因 | 第 21 回 | 企画力：チームビルディング |
| 第 7 回 | 競争優位 | 第 22 回 | 企画力：発想法 |
| 第 8 回 | グループワーク② | 第 23 回 | 企画力：ファシリテーション |
| 第 9 回 | 価値創造 | 第 24 回 | 企画力：ディスカッション |
| 第 10 回 | トレードオフ | 第 25 回 | 企画力：企画の実現 |
| 第 11 回 | 適合性 | 第 26 回 | 業界分析 |
| 第 12 回 | 継続性 | 第 27 回 | 企業分析 |
| 第 13 回 | グループワーク③ | 第 28 回 | 職種分析 |
| 第 14 回 | プレゼンテーション | 第 29 回 | 自己分析 |
| 第 15 回 | 総括 | 第 30 回 | グループワーク |
| | | 第 31 回 | 筆記試験等（含むレポート） |

到達目標

- ・経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につけることができる。
- ・理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につけることができる。

履修上の注意

- ・指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これらは就職活動のみならず、社会に出た後にも役立つものである。

予習復習

- ・発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
 - ・この評価には読解力（30%）・文章力（40%）・発言力（30%）の向上などを含む。

テキスト

授業内で指定する